

よびごえ



浄土真宗

仏光寺派
光明山
光善寺

〒915-0802
越前市北府2丁目2-18
Tel. 0778-22-1222

によらいだいひ おんどく
如来大勢 恩徳は

身を粉にしても報ずし

ししゆちしき おんどく
師主知識 恩徳も

ほねをくだきても謝すし

：

「知恩報徳」とは、恩を知って徳を報ずるということ。「恩」とは先に生まれた者の尊いはたらきで今の自分があるということを知って、自分もまたあとに続く者のために、そういう尊いはたらきをしていくことと言ってよいかと思ひます。

山に植林すると、木が伸びて売れるようになるまでに三代かかると言われています。ですから、植林する人は三

代後の人たちのために一生懸命植林しているんですね。そうすると三代目の人たちが大きくなった木を売って、それで生活を保つことができる。ですから三代後の人たちは、ご先祖さまに感謝して、また三代後の人たちのために植林する。これを恩のリーと言うのだそうです。

外国にはこの「恩」という字の意味に当てはまる言葉がないのだそうです。ですから今、外国の学者たちは日本語の恩を「On」と書いて、その意味を人びとに伝えようとしているのだそうです。

なぜなら、恩を知らないと、もう地球は滅びるかもしれないという段階まできているからだということですね。自分たちだけよければ、後の世代はどうなっても知らないと言って排気ガスをまき散らし、森の木を伐採して砂漠化し、好き勝手に地球を汚していると、地球はやがて死の世

世界になつてしまふ。それを止めるためには、人間すべてが恩を感じる人になれなければ、もう地球の運命は終わりが見えている。

恩を感じた人は、必ず自分もまたこれから生まれてくる人のために生きなければならぬと思うでしょう。ですから恩を知った者は必ずその徳に報いる、つまり「報徳」という心を生ずるのです。

後に続く人のためにという気持ちがなぜ起こってくるのかと言うと、それは前の人が私に「徳」―他の者のために生きようとする品性のある生き方―を教えてくださったから、その徳に報いなければならぬという気持ちが自然と培つちかわれてくるからです。

：

『真宗門徒になる』

蓑輪秀邦

東本願寺

秋初穂(あきばつお)

ありがとうございました

